



「私の養豚経営を振り返り……」

養豚経営：

田上町大字湯川 吉澤 博文氏



私は平成元年(25歳の時)に地元の食品会社を退職し就農しました。当時は父が母豚50頭の一貫経営を行っており、父と二人で豚舎を増築し規模拡大を行いました。就農後おおよそ3年目ぐらいで母豚80頭規模に増頭できました。その頃は養豚の事は良く解からず、養豚関係の集まりには積極的に参加しました。幸い仲間にも恵まれ色々な事を教わりました。お蔭様で繁殖、肥育成績も向上し養豚経営に自信が持てるようになりました。将来展望として母豚100頭規模に増頭したい希望を持っていたことから、平成7年にスーパーL資金を借入れて800頭収容のウインドレス肥育舎を新築しました。また、平成10年には畜産環境整備リース事業で堆肥プラントを導入、併せて浄化槽も増設し現在に至っています。自分なりに一生懸命やって来たつもりですが、今から思うと肥育舎建設中に父が病気で倒れ、その後母も倒れ精神的にも肉体的にも大変でした。そんな中で、グループのメンバーや、業者、関連団体の方々に励まされ、「頑張らなければ」と必死の思いで努力してきました。そんな無我夢中の養豚経営の取り組みでしたが、気が付いてみると借入金の返済も来年で終了し経営的にも楽になります。また、長男も農業大学校に今年入学し勉強しているところです。ただ、現在の農業情勢を見ると養豚に明るい兆しが見えず、この先どうなる事かと不安を感じております。私の場合は、高校卒業後就農せずに一旦社会に出て良い事も、悪い事も色々経験して来ました。その経験があるから今有ると思うので、長男にも色々な事を経験させ、本人が養豚経営に就きたいと思う時が来るまで見守って上げたいと思っております。最後になりましたが、今日頑張って実行している事が、来年の今日の経営につながると思い、「農場内、歩くな!!」の精神で、数多くの養豚経営者に負けないように一日一日を精一杯取り組んで行きたいと思っております。

「私と養豚経営」

養豚経営：

津南町上郷加用 山岸 秀世氏



私が養豚を始めて25年が過ぎました。地元が嫌いと言う訳では有りませんでしたが、とにかく外へ出てみたいという思いから、親の願いを無視して群馬県の会社に3年間お世話になりました。親との約束で3年間は自由になれたので退社には迷いはありませんでした。津南町に帰郷し家の手伝いをしながら色々仕事をしました。当時地元の「豚飼い」は元気が良かった様に思う。友人も養豚を始めたばかりの頃でしたので、私もこの地域に住むのであればと、養豚業の世界に入りました。しかし、この業界はそれほど甘い世界ではありませんでした。自分の無知を十分思い知らされる日々の連続でした。でも近くに仲間が多くいたお蔭で色々勉強会等も行い、畜産会の経営診断も受診するようになりました。成績は思うように向上しませんが、少しずつでも上昇したいと努力しています。私のグループでは増頭が進んでおりますが、当農場は母豚55頭位の規模であり増頭は進んでおりません。ただ津南町は県内でも有数の畑作地帯でありますので就農以来、我が家は養豚と畑作の複合経営です。作物は根菜・スイートコーン等、堆肥は全量自家利用し年々味自慢の農作物が出来るようになり、先般エコファーマーの認定も受けております。特にトウモロコシは地元では「豚飼いのトウマメ」と言われ人気があります。今、生産物の全てがトレーサビリティの時代、管内の当グループ10人全員が「クリーンポーク認定農場」です。事務量ばかり増えて売価に反映されない部分はありますが、継続は力なりと言いますので、記帳も宝となるように努力したいと思います。継続といえば中魚沼地区に今年で30周年を迎える「パローショウ」が10月に開催予定です。今、日本中で各種疾病が慢性化する中で生体豚を出品、審査するというイベントを実施しているところは数少ないのではなからうか。当地では早くから防疫協議会を立ち上げ伝染病予防に努めております。病気がないという事が経営を安定させる重要なポイントと思っております。今後どの様な難局が有るか判りませんが養豚仲間と共に頑張りたいと思っております。